

タイトル:おばあちゃんとパチンコ

## 1 エピソード

小児病棟ではクリスマスサンタさんが家に来るので外泊許可を出しお家で過ごす患者さんもいらっしゃいますが症状によっては家に帰れない子供たちもいます。

病気に限らず何かしらの理由で頑張っている子どもたちは笑顔の時間を誰よりも増やしたいそのきっかけを作りたい。その思い全国で手作りのフェルトの玩具や鞆など作成募集してクリスマスには子供たちの元へ手作りもおもちゃを届ける活動を行なっています。

11月には全国からたくさんの手縫いや手編みの品々が届きます。

作り手の想いはそれぞれ。

我が子も病気で入院した時期があった。手先が器用で作ることが好き、介護もあり息抜きになっている、ボランティアに参加したいなど様々。

そんな活動の中、1人の80代のおばあちゃまが息子さんからこの取り組みを聞き、ポーチを手ぬいで縫って来てくださいました。おばあちゃまは一人暮らし。毎日暇を持て余しパチンコへ通い時間を潰していたようです。ご家族も心配される毎日でした。そんなおばあちゃま。1枚のポーチを縫った事で生活がガラリと変わりました。

自分の時間も技術も誰かのためなると感じられたようで、パチンコに通い詰めていた時間とお金は布を選びに買い物へ行き、縫う時間と変わったのです。

1年間で200枚以上、一針一針手縫いの鞆が毎年年末に届き小児病棟へ届ら子供たちの笑顔につながっています。

ご高齢なのでまち針が残っている事もしばしありまして、検針機を購入しておばあちゃまの手縫いのポーチは1枚1枚検針機に通して小児病棟へ届けています。

病気で頑張る子供たちへの想いがおばあちゃまの時間を有意義な時間へと導いたようです。



誰かのためにと思っていた活動は作り手も貰い手もは happy と smile に変わっていました